Ⅶ　令和元年度　九州地区研究大会報告

令和元年度九州地区盲学校教育研究会・熊本大会

1　大会概要

（1）　期　日　　令和元年（2019 年）11 月 15 日（金）
（2）　場　所　　熊本県立盲学校

2　内容

（1）　公開授業
（2）　分科会

①　第１分科会（学習指導１）
テーマ：美術科における視覚障がいのある児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」
協議題：「教師の関わりの在り方」
「豊かな感性・創造性を高める学習指導」
研究発表「豊かな創造性を高める指導」　（沖縄県立沖縄盲学校）

②　第２分科会（学習指導２）
テーマ：視覚障がいの特性に応じた指導と教材・教具の工夫
協議題：「視覚障がいの特性を踏まえた思考力・判断力・表現力を育てるための指導」
「学ぶ意欲を引き出すための指導や教材・教具の工夫」
研究発表「体幹として分かる授業づくりのアイディア～中高理科の授業を通して～」
（佐賀県立盲学校）

③　第３分科会（生活）
テーマ：寄宿舎における防災・安全指導について
協議題：「緊急時の自己防衛について」
「夜間の緊急時の動きと災害時の避難体制について」
研究発表「寄宿舎における危機管理体制の見直し～生徒の安心・安全な生活のために～」
（福岡県立福岡高等視覚特別支援学校）

④　第４分科会（特別支援）
テーマ：地域のセンター的役割とネットワーク及び課題
協議題：「センター的役割の充実に向けた関係機関とのネットワーク体制」
「近年の教育相談の傾向と課題」
研究発表「教育相談における関係機関との連携について」（福岡県立北九州視覚特別支援学校）

⑤　第５分科会（理療）
テーマ：立体構造の理解を助ける教材や指導法の工夫について
協議題：「立体構造の理解に有用な ICT の活用」
「視覚以外を活用して立体構造の理解を促す方法」
研究発表「わかりやすい筋模型の作成」　（宮崎県立明星視覚支援学校）

3　報告

第４分科会では、教育相談における関係機関との連携についての発表があった。来談頻度が少なく、限られた教育相談の時間における指導や支援の目標達成が難しくなってきたりしている現状で様々な工夫がされていた。効率的に連携を図る方策として研修会への参加を呼びかけたり、連絡帳を活用したりすることや、視覚補助具を在籍校の担任にシミュレーションレンズを使用して対象児童が遠くを見ることが難しいことを実感してもらい、必要性を感じてもらう事例等が紹介された。今後の指導・支援をしていく上で大変勉強になった。

第２４回　九州地区聴覚障害教育研究大会（久留米大会）

１ 大会概要

（１）大会主題　「新たな時代を生き抜く子どもを育む魅力ある聾学校を目指して」
～変化する社会情勢の中で聾学校が果たすべき役割～

（２） 期　　日　　令和元年１１月２１日（木）から２２日（金）まで

（３） 場　　所　　福岡県立久留米聴覚特別支援学校

２ 内容

１１月２１日（木）

（１） 公開授業　　幼稚部４学級・小学部８学級・中学部５学級

（２） 指定授業（指導グループ別）

語彙グループ（幼稚部）	ひみつきち　さくせんかいぎ
品詞グループ（小学部２年）	形容詞を使った文作り
表現グループ（小学部４年）	使役文について知ろう
読解・作文グループ（中学部３年）	伝えたいことを分かりやすく伝えよう

（３） 全体会　　開会行事・総会

（４） 研究協議会

語彙(幼稚部・重複児童生徒)	語彙力を高め、気持ちや経験を表現できる力を育てる指導の工夫
品詞・表現(小学部・中学部)	視覚的教材を活用した日本語文法指導の工夫
読解・作文(小学部・中学部)	自立的読み書き能力を身に付けるための実践的な指導の工夫

（５） 記念講演

演題「聴覚障がい学生支援から見えてくるろう教育の新たな展望」

講師　白澤　麻弓　氏（筑波技術大学　障害者高等教育研究支援センター障害者支援研究准教授）

１１月２２日（金）

（１）分科会

分科会名	テーマ
１　早期教育 ・幼稚部教育	幼児のコミュニケーション力を育む指導の工夫と保護者支援の在り方を考える。
２　学力と教科教育 （小）文系	学力を支える日本語の読み書きの力を育て、指導内容の定着を図る教科指導の在り方について考える。
３　学力と教科教育 （中・高）理系	意欲的・主体的に活動し生活の中で活用する態度を育てる指導の工夫について考える。
４　自立活動 「障がい認識」	自己肯定感を高め、障がい認識を深める指導・支援の方法について考える。
５　基本問題 「重複障がい教育」	多様化する障がいの実態を踏まえ、コミュニケーション力を高める指導の在り方を考える。

３ 報 告

記念講演は、筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター障害者支援研究准教授の白澤麻弓氏による「聴覚障害学生支援から見えてくる聾教育の新たな展望」という演題で行われた。大学で学ぶ聴覚障がい学生の現状及びこれからの時代を生き抜く子供たちを育てるために学校段階でできること等について話をされた。大学においても様々な合理的配慮が提供されるようになっているものの、そのためには本人の意思表示が必要であり、その際に自分の気持ちやニーズを論理立てて説明したり、相手の立場や事情を考慮して交渉したりする力が必要となる。そのような力を身に付けるために、実際に大学生に対して実践されていること例に挙げて紹介された。学校段階から質の高い情報保障を見る経験や自分で情報保障を依頼するなど、経験させたり考えさせたりする場を提供しながら、自ら周囲に働き掛けて必要な支援を生み出せる子供を育てていく必要性を感じた。

第４３回　九州地区難聴・言語障害教育研究会福岡大会

１　大会概要

（１）　大会主題　　「　これからの難聴・言語障害教育のあり方を考える　」
～　子どもや保護者のニーズに応える支援や連携をめざして　～
（２）　期　　日　　令和元年７月２９日（月）～３０日（火）
（３）　場　　所　　福岡リーセントホテル（1日目)、クローバープラザ（２日目）

２　内　　容

（１）全体会（記念講演）「吃音の合理的配慮を考える」
講師　菊池　良和　氏（九州大学病院耳鼻咽喉科医学博士）
（２）分科会　提案１・２
①　第１分科会「構音」
②　第２分科会「吃音」
③　第３分科会「言語発達」
④　第４分科会「聴覚」
⑤　第５分科会「連携」
（３）分科会・ミニレクチャー
①　第１分科会「構音に誤りのある子どもをどうとらえ、どう支援していくか」
聖マリア病院リハビリテーション室　副室長　中島　栄子　氏
②　第２分科会「吃音のある子どもをどうとらえ、どう支援していくか」
九州大学病院耳鼻咽喉科　医師　菊池　良和　氏
③　第３分科会「言語発達に課題のある子どもをどうとらえ、どう支援していくか」
福岡県教育センター指導主事　都　理香　氏、　相浦　愛子　氏
④　第４分科会「聴覚に障害のある子どもをどうとらえ、どう支援していくか」
福岡国際医療福祉大学　教授　平島　ユイ子　氏
⑤　第５分科会「子どものために、どう連携し支援していくか」
国立特別支援教育総合研究所　牧野　泰美　氏

３　報　　告

本年度の大会は台風の影響もなく、予定通り２日間実施となった。

１日目の記念講演では、「吃音の合理的配慮を考える」の演題で話があった。講演をされた九州大学病院耳鼻咽喉科医師の菊池良和先生自身も吃音があることから、自身の経験や診療の事例をもとにした具体的な話をされた。「吃音はタイミング障害であり、緊張が吃音の原因ではなく、最新の研究ではＤＮＡが関係していること」や「吃音の歴史では『矯正→克服→上手に付き合う』と変わってきているため、新しい認識をもって保護者の理解を深めること」等を話された。また、合理的配慮について、「法律を知ると救える吃音者がいること」の事例をもとに、どのような方法や手順で合理的配慮を行えばよいのかを提示された。最後に「吃音があっても安全な社会を目指して、周囲が吃音児を理解すること、吃音児の聞き手が変わることが大切である」という言葉でまとめられていた。吃音児や保護者の悩みに寄り添うことを大切にし、吃音についての理解を深めるとともに、一人一人の特性に応じた支援、指導に努めていきたいと思った。

各県の代表者会では、各県の現状や課題について情報交換を行った。また、九難言研開催について様々な意見や提案がされた。大会運営の難しさや分科会の在り方等について検討したが、すぐに決められるものではなく、次回の代表者会までに各県で話し合っておくことになった。

２日目は分科会が行われ、第１分科会「構音」では、本県から明道小学校の関谷香代子教諭が、「構音に誤りがある子どもの指導～子どもができたと実感できる指導の工夫を通して～」をテーマに、児童の意欲を大切にしたきめ細かな指導の実際を報告することができた。ミニレクチャーもあり、今後の指導に役立てていくための学びを得ることができ、実践に生かしていきたいと思った。

第５３回九州地区特別支援教育研究連盟研究大会「鹿児島大会」

１　大会概要

（１）大会主題　　「志をもち、未来社会を切り拓く子どもたちの育成」
～子ども一人一人の資質・能力を育む、カリキュラムマネジメントの実現に向けて～

（２）期　日　　令和元年１０月３１日(木)～１１月１日（金）

（３）場所（会場）　第１日目（評議員会・全体会・情報交換会）かごしま県民交流センター
第２日目（公開授業・分科会）鹿児島市立中郡小学校、八幡小学校、その他

２　内　　容

（１）　第１日目（評議員会・全体会・分科会打ち合わせ会・情報交換会）

① 評議員会 ② 開会式（開式の言葉、挨拶、祝辞、来賓紹介、閉式の言葉）

③ 記念講演　演題 『知的障害教育の「特長」を活かした子どもが「わかる！」授業実践とカリキュラムマネジメント』

講師 筑波大学人間系障害科学域　准教授　障害科学学会理事・事務局長米田　宏樹　氏

④ 閉会式（開式の言葉、次年度開催県挨拶、閉式の言葉）

（２）　第２日目　（公開授業・分科会）

① 分科会（全９分科会）

	分科会名	分科会テーマ	提案者
1	日常生活の指導	生きる力を育む日常生活の指導	熊本県・鹿児島県・宮崎県
2	生活単元学習	社会生活に生かす生活単元学習	熊本県・鹿児島県・沖縄県
3	教科別の指導 総合的な学習の時間	主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた教科別の指導、総合的な学習の時間	沖縄県・熊本県・宮崎県
4	作業学習 進路指導	主体的な自立と社会参加を目指した作業学習・進路学習	福岡県・佐賀県・鹿児島県
5	自立活動	主体的に困難の改善・克服に取り組む自立活動	佐賀県・長崎県・鹿児島県
6	交流及び共同学習	共に学び、認め合う交流及び共同学習と今後の特別支援教育の役割	長崎県・大分県・鹿児島県
7	合理的配慮の実際	ユニバーサルデザインの視点と個に応じた環境設定	大分県・鹿児島県・宮崎県

３　報　　告

初日の記念講演では、講師の米田氏による、合わせた指導や知的障がい教育についてなど、授業実践を取り入れながら具体的な話があった。講演の中で、繰り返し語られていた「子どもが分かる授業を実践する」、「何を教えたのか、子どもが何を学んだのか説明する責任がある」、「子どもの将来像を思い描く」、「子どもに何を分かってほしいのかを明確にした授業を実践する」など、特別支援教育に携わる教師として、肝に銘じたい。

２日目は、９つの分科会に分かれ、それぞれの会場にて実施された。学校紹介や授業参観、公開授業、教材教具の展示などがあり、実際に取り組んでいる場を見ることができた。また、それぞれのテーマに基づいて取り組まれた活動の発表や提案があり、参加者とグループ協議を行うなど、深い学びのある分科会となった。

第５９回　九州地区病弱虚弱教育研究連盟研究協議会　沖縄大会

１　研究主題

「病弱虚弱教育の今後の在り方を求めて～多様化するニーズへの対応～」

２　主な研究・活動の内容

（１）期　日　　令和元年８月２０日（火）～２２日（木）
（２）会　場　　沖縄県男女共同参画センター　「　てぃるる　」
（３）内　容

８月２０日（火） 大会前日	**校長会・理事会** **分科会打ち合わせ**
８月２１日（水） 大会１日目	**総会** **講演Ⅰ** 演題「発達障害児の特性と対応上の工夫について」 講師　琉球大学大学院　精神科神経科　助教・医局長 島袋盛洋　氏 **分科会** 第１分科会　教科指導・自立活動 テーマ「ＩＣＴ機器を活用した重度・重複障がいのある子どもへの指導・支援の充実」 提言者　大分県立　別府支援学校　石垣原校　藤井克彦 テーマ「多様な実態の児童への具体的な指導・支援の在り方について ～気持ちのコントロールと読み書きの困難さに焦点をあて～」 提言者　宮崎県立　赤江まつばら支援学校　齋藤　志保 第２分科会　進路指導・キャリア教育 テーマ「病状や実態に応じた教育実践と進路指導」 提言者　北九州市立　小倉総合特別支援学校　石橋敬子　河村美枝子 テーマ「自らの力で進路を選択する力の育成～高１におけるコースの選択の指導を通して」 提言者　長崎県立桜が丘特別支援学校　葛島　隆文 第３分科会　地域のセンター的役割 テーマ「病弱特別支援学校へのスムーズな移行支援について」 提言者　北九州市立門司総合特別支援学校　居原孝侍 テーマ「センター的役割の充実を目指して～本校と院内学級における取り組みから～」 提言者　沖縄県立森川特別支援学校　前上里　博子
８月２２日（木） 大会３日目	**分科会報告** **講演Ⅱ** テーマ「新学習指導要領と病弱教育の今後の展望」 講師　文部科学省　初等中等局特別支援教育課 特別支援教育調査官　深草瑞世　氏 **閉会行事**

３　報告

講演Ｉでは、発達障害（ＡＤＨＤ、ＡＳＤ）の基本的知識や大人の発達障害の現状・思春期から青年期にかけての具体的事例についての話があり、将来を見通し支援の在り方について深く考えることができた。また、分科会や協議等を通して多様な実態における指導等について具体的に知ることができた。同じ病弱特別支援学校でも、各県でそれぞれ児童・生徒の実態が異なり、それに伴い課題も多様であることが分かり、今後の病弱特別支援学校の在り方についてとても考えさせられた。

第５６回九州地区肢体不自由教育研究大会長崎大会

１　大会概要

（１）　大会主題

「学習指導要領に基づく肢体不自由教育校の教育活動の在り方を探る」

（２）　期　日

令和元年 10 月 16 日（水）～10 月 18 日（金）

（３）　場所（会場）

アルカス SASEBO（全体会・分科会）

長崎県立佐世保特別支援学校（公開授業・講話）

２　内　容

（１）　日　程

＜１日目（10 月 16 日）＞

PTA 連合会・校長会・PTA 会長会、全体会、分科会打ち合わせ

＜２日目（10 月 17 日）＞

開会行事、記念講演、分科会、長崎大会企画（ポスター発表、教材展示等）

＜３日目（10 月 18 日）＞

学校公開（公開授業）、講話・PTA 座談会、閉会行事

（２）　概　要

○　記念講演

演　題：　「養護学校を卒業して」　　講師：　吉村隆樹　氏

○　分科会

分科会テーマ	観　点
各学校におけるカリキュラム・マネジメント及び授業改善に向けた取組の実践と課題	○教育課程編成・運用の実際と工夫 ・教育課程の PDCA サイクル ・教育課程の改善に向けた取組と工夫 ○授業改善の取り組みと教育課程のつながり ・新学習指導要領実施に向けた各学校の取組 ・授業評価を教育課程の改善に生かす工夫 ・特別の教科道徳や特色ある教育活動の実践
児童生徒の障害に配慮した、準ずる・下学年・下学年代替の教育課程/知的障害特別支援学校の教育課程における実践と課題	○準ずる・下学年代替の指導の実際と工夫 ・学力向上のための教育家庭及び指導計画の工夫 ○知的障害を併せ有する児童生徒の指導の実際と工夫 ・指導計画、指導の実際と評価の在り方 ・主体的な活動を引き出す教材教具の活用と指導の工夫
自立活動の時間の指導・教育活動全体における指導実践及び外部専門家との連携等、自立活動の専門性向上にかかる実践と課題	○自立活動の指導の実際と工夫 ・個別指導計画における実態把握から目標設定、指導計画、評価 ・指導力向上のための取組 ・指導体制の工夫 ・関係機関との連携 ・教材教具の工夫及び自助具・補助具の活用
効果的な情報教育の授業実践、自立と社会参加につながる支援機器活用の実践と課題	○情報教育の指導や支援機器の活用 ・将来を見据えた情報教育の実践 ・情報活用能力育成の工夫 ・支援機器を活用した指導実践

	・支援機器の活用に向けて指導の工夫
キャリア教育・進路指導の充実 心身の健康と安全を保つための学校生活での配慮	○豊かな生活を送るためのキャリア教育・進路指導 ・各部段階における進路指導の実際 ・卒業生の生活を見据えた取組 ○健康・保健・安全に関わる取組 ・一人一人に応じた健康安全教育の進め方 ・医療的ケアの実際 ・食育や摂食指導の取組
一人一人の自立や社会参加を支えるPTA活動の在り方	○自立や社会参加を支援するPTA活動 ・PTAの組織と活動（広報や啓発、連携） ・放課後や長期休業日の生活支援 ・地域社会や居住地校との交流及び共同学習 ・防災の取組 ・障害者差別解消法を受けた取組
寄宿舎教育を含めた生活指導の実践と課題	○自立と主体性を促す生活指導の在り方 ・学校、寄宿舎、家庭、地域との連携 ・子どもが主体的に取り組む生活づくり ・社会参加に向けた指導と支援の在り方 ・問題行動への対応の在り方

○　学校公開（公開授業）、講話・PTA座談会、閉会行事
　　場所：長崎県立佐世保特別支援学校

○　講話
　　演題：「肢体不自由教育の現状と課題」～教育活動の更なる質の向上をめざして～
　　講師：文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官　菅野和彦　氏

３　報　告

１日目は、校長会、PTA会長会、学校委員会などがあり、各学校の代表が集まり、各校の実情や課題の検討、今後の展望などの情報提供や意見交換が行われた。その中で、全国肢体不自由教育特別支援学校PTA連合会の予算を確保するために、一人100円ずつ徴収して積み立てていく案が提出され了承された。また、第5分科会の持ち方、テーマが広がらないため、①キャリア教育・進路指導②健康教育を隔年実施の方向になり、2年後の宮崎大会から実施されることになった。

２日目は開会行事の後、「ハーティーラダー」「マイボイス」「ハーティーアイ」など無料で公開し、重い障害や病気の人でも、パソコンを通じて誰かと心を通じ合え、その手助けがしたいという強い思いで、多くの障害者や難病患者に希望を与えている吉村隆樹氏の記念講演が行われた。その中で、養護学校（特別支援学校）に求めることとして、①学力をつける。②社会に出た時にちゃんと生きていけるすべを身に付けるところ。（いろいろな楽しい経験をすることで、将来生きていくための力になる）③一人一人の児童生徒にじっくり向き合い、持っている能力を見出してそれを伸ばしてほしい。④将来に対する夢を持たせてほしい。ということについて述べられた。

２日目の午後は、分科会に分かれての提案と研究協議があった。自立活動の分科会で、清武せいりゅう支援学校から「児童生徒の主体的な学びを支える自立活動の指導～児童生徒の実態把握と根拠とした指導実践を通して～」のテーマでの発表が行われた。続いて、長崎大会企画による、ポスター発表等が行われた。それぞれの学校の全体研究でのカリキュラムマネージメントを意識した授業の単元別指導計画表の掲示や、各段階で育てたい力を記入して授業で育てたい力を明確にした実践事例などが発表されていた。また、記念講演をされた、吉村隆樹氏のﾊｰﾃｨｰﾗﾀﾞｰを体験するのコーナーも設置されていた。

３日目は、長崎県立佐世保特別支援学校の学校公開が行われた。続いて、菅野和彦氏による講話とPTA座談会が同じ時間帯に行われた。講話では、「肢体不自由教育の現状と課題」があり、新学習指導要領についての説明や学習評価について述べられた。

第47回九州地区情緒障害教育研究会「鹿児島大会」

１　大会概要

（１）　大会主題　　「志をもち，未来社会を切り拓く子どもたちの育成」
　　～子ども一人一人の資質・能力を育む，カリキュラムマネジメントの実現に向けて～

（２）　期　日　　令和元年１０月３１日（木）、１１月１日（金）

（３）　場所（会場）　鹿児島県鹿児島市（かごしま県民交流センター）

２　内　　容

（１）　開会行事

（２）　記念講演

講師：筑波大学人間系障害科学域　准教授　米田　宏樹　先生

演題：『知的障害教育の「特長」を活かした子どもが「わかる！」授業実践とカリキュラムマネジメント』

（３）　分科会

①　第８分科会　自閉スペクトラム症

ア　提案発表：大分県、佐賀県

イ　指導助言・基礎講座：鹿児島国際大学社会学科　特任准教授　古賀 政文 先生

②　第９分科会　ＬＤ・ＡＤＨＤ

ア　提案発表：長崎県、宮崎県

イ　指導助言・基礎講座：鹿児島大学教育学部　准教授　雲井 未歓 先生

（４）　閉会行事

３　報　　告

第９分科会では、特別支援教育コーディネーターの立場から、通常学級に在籍するＬＤ・ＡＤＨＤの児童生徒への支援の取組の報告があった。児童生徒の困りを少しでも軽くしていく支援のツールとして、保護者、教職員それぞれに向けた「コーディネーターだより」の活用や、言葉による説明を図や絵にして分かりやすくする「スケッチブック」の活用をしていることが特徴的であった。

また、本県の串間市立北方小学校の谷口　一恵　教諭から、昨年度までの宮崎市立学園木花台小学校ＬＤ・ＡＤＨＤ通級指導教室での実践の報告があった。通級指導を受けている子どもの自己肯定感を高める取組として、「木台っ子日記」と漢字の読み書きの指導についての紹介がなされた。自分の努力や頑張りが認識できるようになって自信を持てるようになったことや、漢字への苦手意識の軽減などが成果として挙げられた。

基礎講座では、「ＬＤ児・ＡＤＨＤ児に対する読み書きの学習支援の在り方」というタイトルで、読み書き困難の早期予防的支援の必要性についての紹介があった。実態把握と支援のツールとして、『「読めた」「わかった」「できた」読み書きアセスメント』の活用の仕方や、支援教材など、児童生徒の指導に役立つ資料などを教えていただくことができ、大変参考になった。